

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三室中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	三室中学校の知識・技能は、中学1・2年生の数学と2年生の国語・社会において特に強化が必要である。今後は、ICT教材やスクールダッシュボードの学習履歴をより効果的に活用し、生徒一人ひとりに応じた個別最適な反復学習を学校全体で継続していくことで、基礎学力の確実な定着を目指す。
思考・判断・表現	日々の学習の中で、最後まで粘り強く問題に取り組み、「文章で書く練習」を継続的に取り入れることが必要である。またICT活用の利点を生かしながら、他者との交流や発表の場をさらに設定し、自らの考えを発信する自信を育む指導を強化していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 個別最適化された学習による基礎学力の定着を図る。 <指導上の課題> ICT、スクールダッシュボードの効果的活用。	⇒ 個別最適化された学習を提供するために「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む。スクールダッシュボードを活用した学習履歴を自分の学習の調整や教師による指導の改善に役立てる。【年間を通して月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自らの考えを自身の言葉として発信することに自信を持つことができない。 <指導上の課題> ICTを効果的に活用した他者との交流や発表の場の設定。	⇒ 「Teams」や「ムーブノート」等を活用し、他者と意見を共有したり対話したりする中で、自分の考えを広げたり深めたりする。また、ユニバーサルデザインを意識した取り組みを行う。【年間を通して月に1度】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	結果分析(管理職・学年主任等)	ICTの活用頻度が「毎授業」までは至っていないことや、自己振り返りの時間が教科によってバラつきがあることが課題として挙げられています。今後は、これらの活動を「学校全体で共有し、継続的に取り組むこと」が知識・技能をより引き上げる鍵となると考えられる。
思考・判断・表現	B	職員会議・校内研修等	「Teams」や「ムーブノート」を活用し、他者と意見を共有したり対話したりすることで、自分の考えを広げ、深める場を設けた。パワーポイントや「オウリングプラス」を用いた発表活動を実践した際、コメントやアクション機能を使って生徒同士で評価し合うことで、発信力の向上を図った。また、教科ごとにICTの使用方法や成果を報告・共有し、様々なアイデアを実際の授業に取り入れた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学においては図形の範囲の「証明」とデータの活用範囲の「確率」の問題に、理科においては「エネルギー」と「粒子」の問題に課題がみられた。状況を読み取って数式や図に落とし込む力や、目に見えない現象をイメージする力を身に付けることと、理論を使って考え説明する力を伸ばすような授業を今後も検討していく。
思考・判断・表現	国語、数学において、評価の観点から思考・判断・表現の記述式の問題において無解答率が高くなる傾向がみられた。生徒質問においても、「全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した」の項目に課題がみられた。ただ、ICT機器を活用して文章を作成し、情報を集め、プレゼンテーションを作成することは肯定的にとらえている。日々の学習の中で、最後まで粘り強く問題に取り組み、文章で書く練習をとり入れていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全教科・全学年で市平均を下回っており、特に中学1・2年生の数学や2年生の国語で大きな乖離が見られた。具体的な単元では、数学では、図形領域の「証明」、データ活用領域の「確率」、理科では「エネルギー」および「粒子」を柱とする領域。これらの分野では、単なる知識の暗記に留まらず、状況を数式や図に落とし込む力や、理論を使って考え説明する力を伸ばす指導を重視していく必要がある。
思考・判断・表現	全教科・全学年で市平均を下回っており、特に記述式問題における無解答率が高い傾向にある。学習面では「自分の考えを自身の言葉で発信することに自信が持てない」という課題がある一方、ICT機器を活用した文章作成やプレゼン作成には肯定的であるという特徴が見られる。具体的には、中2国語の「書くこと」や、中2社会の「思考・判断・表現」で、表現力の不足が顕著に現れている。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「スタディサプリ」等ICTを活用し、基本的な学習に取り組んだが、毎授業とはいかなかった。生徒自らの課題を把握し取り組むため、スクールダッシュボードの授業アンケート等を活用した。自己の振り返りができる時間を設定しているが、教科によって毎時間取り組めていないため、学校全体で共有し取り組んでいく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒の発表の場では積極的にICTを用い、コメントやアクション機能を使って評価を行った。教科ごとにICTの使用方法や成果の報告を行い、情報共有することでパワーポイントでの発表、オウリングプラスの活用など様々なアイデアを各授業にて実践し、協働的な学びにつなげることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)